

**KSK**

# 川崎市障害者社会参加 推進センター通信

編集人 川崎市障害者社会参加推進センター  
所 長 中込 義昌  
編集責任者 広報・啓発委員会  
委員長 澤藤 充教  
〒210-0834 川崎市大島 1-8-6  
川崎市南部身体障害者福祉会館内  
電 話 044-246-6941  
F A X 044-246-6943  
Email zksk@nifty.com  
http://kawashinkyo.org

## 平成 27 年度 川崎市身体障害者大運動会



平成 27 年度川崎市身体障害者大運動会が 10 月 4 日(日)、川崎市富士見公園内市民広場で開催されました。

大運動会実行委員会 関山進実行委員長の開会宣言の後、主催の公益財団法人川崎市身体障害者協会 中込義昌理事長の挨拶に引き続き、社会福祉法人川崎市社会福祉協議会の佐藤忠次さとうちゅうじ会長より祝辞をいただきました。来賓紹介、第 15 回全国障害者スポーツ大会に出場される選手の方々の紹介、山口富士夫選手によるフライングディスク競技のデモンストレーションと進み、開会式の最後に全員で準備体操を行いました。(事務局)

### 川崎市身体障害者大運動会に寄せて

3 年ぶりに行われた私たち障害者のための運動会、雨天のため中止になってしまった過去 2 回分の隠れていた太陽が、お返しをしてくれているかのような上々の運動会日和、プ

ログラムは私ども障害者とその家族のための競技となっています。

大玉ころがし、負けるが勝ち、アイマスク、フライングディスク、パン食い競争など、一般の運動会とは少し違った内容です。赤、白に分かれて競技するのは、玉入れ競技ぐらいでしょうか。いずれも事前の練習も必要としない程度のルールと運動量の競技ばかりです。

この日の為に川崎市内のどの地域からでも出かけやすい様にと、「福祉バス」の配車もあり、今年の運動会の来場者はボランティア、来賓等を含め、総勢 127 人だったそうです。

積極的な人は、全部の競技に出場して、賞品もたっぷりもらっていました。

昼休みになると、各自持ち寄りのお弁当を広げて和やかな昼食時間、久々に会う仲間たちと談笑したり、なかなか会えない仲間たちの消息を訊ねたりと、競技とはまた別の賑やかな交流がありました。

午前 10 時から午後 3 時まで、屋外での会場で、聴覚障害者、視覚障害者そして車いすの方たちが移動する中、誰ひとり怪我をすることなくスムーズに大会が行われた陰には、主催者側をはじめ多くのボランティアの支えがあったことを心から感謝いたします。

来年も、また、天候に恵まれて、多くの仲間たちと集えることを楽しみにしています。

おおすき すみこ  
大瀧 純子

## 自閉症スペクトラムの正しい理解を求めて、啓発活動を

皆様こんにちは。センター通信に初登場します「一般社団法人川崎市自閉症協会」代表理事の明石洋子<sup>あかしようこ</sup>です。川崎市自閉症協会は、1979 年に発足してもう 37 年になります。

「自閉症」は、文字が示すように自閉の殻に閉じこもって打ち解けないと言うような障害や状況ではありませんが、目に見えない障害ゆえになかなか理解しづらく、むしろ「乳幼児期に不適切なかかわりをされたために親たちに不信感を抱いて心を閉ざしてしまった」というような、誤解だらけの中で生活してきました。

自閉症は「生まれながらの脳の機能障害」で、中枢神経の発達に問題があり、適切な環境整備を行って二次障害（パニックや自傷、他害などの問題行動）を予防することが大切と言われています。親たちは、長年「地域での生きづらさ（困難さ）」を話し合い、知恵を出し合い、行政への働きかけ等してきました。しかし親だけでは権利擁護も啓発も限界があり、2014 年に専門家も交えて、「一般社団法人」格を取得しました。「自閉症及びその周辺の障害（以下自閉症スペクトラムとする）のある当事者及び家族・関係者に支援を行うとともに、自閉症スペクトラムに関する社会一般の啓発を図り、自閉症スペクトラムのある人たちの福祉の増進に寄与すること」を方針にして各種事業を行っております。「自閉症スペクトラムの人が地域で笑顔で暮らせる社会」をモットーに運動しておりますので、今回の紙面では「発達障害啓発週間」での活動をご報告します。

「自閉症スペクトラムの特徴」としては、

1. 周囲との交流の難しさ
  2. コミュニケーションの取りにくさ
  3. 限定的な興味の対象と動作の反復性
- などがあげられます。具体的な特徴や育て方

や接し方のコツなどについては、次回にでも掲載の機会を頂けたら、うれしく思います。今回は、「啓発」の話をいたしましょう。

川崎市自閉症協会の啓発活動「ようこそ自閉症ワールドへ」も今回 8 回目になりました（詳しくはチラシ参照）。特に今年は川崎市の協力のもと、ブルーライトアップが実現できました。国連が 2007 年に定めた「世界自閉症啓発デー」（4月2日）に、世界各地、日本でも、自閉症等発達障害に対する理解を広めるために、ブルーにライトアップする企画が実践されています。青色には癒しや希望が込められています。当会では長年、行政や議員さんに働き掛けてきましたが、この度やっと実現できました。港湾局のご協力で京浜工業地帯の「川崎マリエン」と、総合商業施設「ラ・チッタデッラ」のガラスのタワーが、「発達障害啓発週間」（4月2日から8日）の一週間、ブルー一色にライトアップされました。



（噴水広場での啓発イベント）

「ラ・チッタデッラ」のご好意で、チネチッタ通りの噴水広場で「啓発イベント」もできました。ガラスのタワーのブルーに合わせて、用意したブルーのキャンドル 100 個の炎が揺れる中、野外で初の「トーク（明石）&ライブ（うすいまさと氏）」を行いました。菊地副市長はじめ行政や社協の方々も参加してくださり、来年度も更なる啓発をお約束してくれました。

タワーを見上げて「いつもと違う。なんでブルーなの?」と市民の皆さまが関心を持ってくだされば、自閉症を説明する機会ができます。関心を持ってくださることからスタートです。

読者の皆様、今後とも「正しい理解と適切な支援を」願って運動して参りますので、よろしくお願いたします。

一般社団法人川崎市自閉症協会  
代表理事 明石 洋子

(チラシ:『第8回ようこそ自閉症ワールドへ』)

発達障害啓発週間2015 世界自閉症啓発デー 特別企画

# ようこそ 自閉症ワールドへ! #8回

平成27年4月2日(木) 18:00~18:45  
ラ チッタデッラ 中央噴水広場

**参加費無料**  
買い物帰り  
お仕事帰りに  
ぜひお寄りください

## ブルーライトアップ

**ガラスのタワーがブルーライトアップ**  
毎年4月2日は国連が定めた「世界自閉症啓発デー」です。みなさんに自閉症を知っていただけるように日本各地、世界各地でブルーライトアップが行われます。川崎市ではラ チッタデッラと川崎マリエンが今年初めてブルーライトアップされます。4月2日当日はラ チッタデッラ中央噴水広場の会場にブルーのキャンドルをご用意して皆様をお出迎えいたします。  
※ブルーは癒しや希望などを表す色です。

## ライブ&トーク

**明石 洋子**  
一般社団法人川崎市自閉症協会代表理事  
(社福) あおぞら共生会副理事長  
知的障害を持つ自閉症の長男の成長に合わせて療育・教育・生活・就労等を「地域に生きる」をモットーに運動。日本、米国、韓国、中国でもドキュメント番組放送や講演、著書の翻訳等啓発活動展開中。

**うすい まさと**  
発達障がい児と共に生きるシンガーソングライター  
高校卒業後、寺内タケシとブルージーンズのボーカルとして全国をまわり、その後ソロ活動へ。  
現在は声にならない子どもや親の想いを歌にして、全国で発達障がい啓発ライブ&トークを行っている。  
その活動はNHKハートネットTV、NHK国際放送ラジオ、新聞など数多くとりあげられている。

~自閉症を知っていますか~  
自閉症の人は自分の般に感じもっているわけではありません。気持ちをうまく伝えることや、他人の言葉を理解することが苦手で、純粋で一生懸命です。  
自閉症は、アスペルガー症候群や広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいと同じく発達障がいの一つです。そして、自閉症やアスペルガー症候群、広汎性発達障がいを自閉症スペクトラムとも呼びます。

世界自閉症啓発デー日本実行委員会公式サイト  
<http://www.worldautismawarenessday.jp/>  
ブルーライトアップ関連情報  
<http://happy-autism.com/iub.html>

ラ チッタデッラ 中央噴水広場



主催: 一般社団法人川崎市自閉症協会/川崎市発達相談支援センター(社会福祉法人青い鳥)  
協力: 株式会社 チッタ エンタテインメント 後援: 川崎市/川崎市教育委員会

絵: 明石徹之

## 私たちの広場(知的障害者本人部会) 川越日帰りバス研修会

今年の日帰りバス研修会は、平成 27 年 9 月 13 日(日)、江戸の町に似た雰囲気から小江戸という愛称を持つ川越を訪ねました。参加者は「私たちの広場」、



「優友会」とその支援者ほか総勢 19 名です。喜多院駐車場到着後、予約していた 4 か所に分かれ、各自早めの昼食となりました。

その後、山門に集合し、観光ガイドの方とともに徳川ゆかりの境内へ。同院は、正式には星野山無量寺喜多院という。江戸城から移築された「徳川家光誕生の間」や「春日局化粧の間」、また 3 つの庭園などを丁寧な説明を受けながら、詳しく学ぶことができました。

さらには、手水所での作法、参るとき綱をゆすって銅鑼(どら)を鳴らしてはいけない、鳴らすと大蛇が目覚ますことも教わりました。実は昼食前に鳴らしてお参りを済ませた人も。



同院で予定を超える時間を要してしまい、健脚者は太田道灌がつくった堅城・川越城跡へ急ぎ足で向かい、他はバスで一番街(蔵造りの町並み)へ。菓子屋横丁で合流し、全員で川越散策を楽しみました。

時の鐘の周辺は大混雑、時間の制約もあり



(川越城の本丸御殿)

蔵の町並みをゆっくり散策できなかったことは心残りでした。



(時の鐘)

それでも、ここ何年間かこの研修会では強い雨に見舞われたことを考えると満足しなければと思うところでした。昨年に続き、歴史に触れる研修になりました。

(育成会かわさき No179 転載加筆)

### 私たちの広場の活動

私たちの広場は、(財)地福協の解散に伴い、現在は統合先の(社福)ともかわさき事務局分室が事務局となっています。活動は別表の年間スケジュールのとおりです。

活動日は、原則毎月第 2 日曜日で、定例会議は、高津区久本 3 丁目にある地域福祉施設「ちどり」会議室で行っています。

私たちの広場では、参加者を募集していません。事務局にお問い合わせください。

TEL 044-812-2966

### 年間スケジュール(平成 27 年度)

- 4 月・5 月 実行委員会(定例会議)
- 6 月 川崎スポーツの会/スポーツ大会
- 7 月・8 月 実行委員会(定例会議)
- 9 月 川崎スポーツの会/日帰りバス研修
- 10 月・11 月 実行委員会(定例会議)
- 12 月 勉強会(マイナンバー制度について)
- 1 月 実行委員会(定例会議)
- 2 月 料理教室
- 3 月 実行委員会(定例会議)

ともかわさき事務局・安達

## 平成 27 年度あやめ会総会 NPO 法人 あやめ会

平成 27 年 5 月 13 日(水)、川崎市総合福祉センター(エポックなかはら)7 階大会議室において、平成 27 年度特定非営利活動法人あやめ会総会が、菊地義雄副市長をはじめ多数の来賓、関係団体・行政・会員など約 70 名の参加を得て、開催されました。総会次第は以下のとおりです。

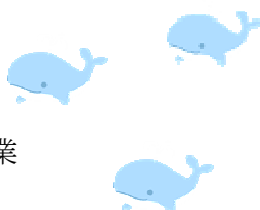
第 1 部式典では、山本泰彦理事長の挨拶に続き、来賓の菊地義雄副市長、市議会代表の浅野文直議員、市社会福祉協議会の佐藤忠次会長、じんかれんの星野ノリ副理事長の各氏から祝辞を頂きました。第 2 部議事においては、第 1 号議案～第 5 号議案まで、すべて満場一致で可決いたしました。その後、功労者窓の会久松春子氏の表彰を行いました。第 3 部総会行事では、日本社会事業大学学長の大島巖氏を講師としてお迎えし、「川崎市の精神保健福祉の歩みと課題、家族会の役割」と題して講演会を開催しました。

### ◎平成 27 年度 事業計画 (案)

○基本方針 精神障がい者とその家族が安心して暮らせる地域社会の構築を目指して各種事業を実施します。同時に、精神障がい者に対する差別・偏見のない地域づくりを進めるための啓発活動に努めます。平成 27 年度は、心の健康相談事業、家族学習会、交流研修会及び訪問活動事業などの計画的な推進を図ると共に、要望活動の強化、広報活動の拡充及び、あやめ会傘下の地域活動支援センター(窓の会、みなみ)や共同生活介護事業所(ホーム AYAME、あやめサポール)のサービス向上と施設運営の充実等を進めます。

### ○事業計画の概要

- 1) 要望活動の強化
- 2) 訪問活動事業
- 3) 「心の健康」相談事業
- 4) 家族学習会事業



- 5) 交流研修会の充実
- 6) あやめ会傘下の施設運営の充実
- 7) 広報活動の拡充(ホームページの充実)
- 8) レクリエーション活動
- 9) その他(啓発活動の展開、事務局機能の強化)

あやめ会副会長 ひがき たかひろ 桧垣 孝博

### 「川崎市の精神保健福祉の歩みと課題、家族会の役割」講演会に参加して

平成 27 年度あやめ会総会の講演は、日本社会事業大学学長の大島巖氏のお話でした。日常的には社事大とよんで、あやめ会にとっては馴染みのある大学の学長さんの講演は初めてでした。それもそのはずあやめ会総会での講演は 25 年振りとのことでした。

日頃は病気としての精神科の話や、治療法の話の聴く機会が多いのですが、精神保健福祉を研究、実践されている方のお話を聴くのは初めてのことでした。

治療に関しては、一番期待したいところですが劇的な進展は望めない現状では、精神保健福祉の充実が、わが娘にとっても家族会のメンバーにとっても切実な問題です。

講演は先生ご自身の研究の紹介と、その過程から生まれた川崎市の精神保健福祉とのかかわりの歴史についての紹介から始まりました。

私はこすぎ会に入会して 11 年になりますが、勉強不足で今回はじめて川崎市は精神保健福祉の先駆けであったということを知りました。1971 年に全国に先駆けて川崎市リハビリテーション医療センター(川崎リハセンター)が開設されました。

大島先生は、日本では研究者としては初めて川崎市と長野県東信地区の地域家族会員の

訪問面接調査を行いました。生活者としての家族に初めて触れ合い、家族に対する見方が 180 度変わったそうです。

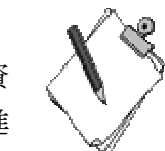
この調査をきっかけにあやめ会の相談役、市の精神保健福祉審議会委員、会長をなさったりいろいろな場面でご協力いただいています。社事大の学生さんが技術実習にいらしたり、窓の会の訪問ボランティアに参加されたりしています。

先生はいろんな調査結果を資料として提示されながら話を進められましたが、中でも印象に残ったのは、川崎は全国に比較して当事者の在宅率が高いこと、単身者率、既婚率が高いこと、でした。このことは早くから地域で支えてきた川崎市の取り組みによってもたらされたことがわかる、とのことでした。

地域で支える、家族支援、はまだまだ不十分だと思えますが、それでも川崎は良い方なんだな・・・と思いました。家族会や窓の会の力が大きかったのだと思います。最近では家族会の会員数が減ってきていますが、家族会の大切さを再確認し、繋いでいかななくてはな・・・と思いました。今後の課題の一つとして先生は「三障害が連携しながら、こども支援、高齢支援と一体となって進めていかねばならない。しかしそれぞれ独自のニーズ、障がい者固有の解決すべき課題を改めて明確に位置づけ、どのように解決していくのか」を挙げられていました。

わが娘について考えてみても、精神障がい者の状況に添った雇用の形態が無いのが実感です。

大島先生は還暦を迎えられたそうですが、若々しくお元気そうですので今後も川崎にお力添えをお願いしたいと思います。講演後時間の制限があり、質疑応答ができなかったのが残念な方がいらしたのでは？と気になりました。



こすぎ会会員

## UD タクシーで工場夜景見学

川崎市の工場夜景をユニバーサルデザインタクシーで障害者、高齢者に楽しんでもらう試みが川崎タクシー、川崎市、川崎市観光協会との連携で始まりました。

モニター募集の記事を新聞で知りさっそく応募しました。

2月17日にユニバーサルデザインタクシー試乗と工場夜景を川崎市肢体協会長 石山春平さんと私の家族計4名で参加しました。



(川崎マリエン展望室にて)

川崎タクシー会社から出発、水江町の東亜石油一千鳥町の日本触媒—臨海鉄道—川崎マリエン展望室—東扇島東公園—首都高速—浮島町の東燃ゼネラル施設群を眺めながら戻りました。

このモデルコースは時間が2時間、料金が9,470円(高速代別料金)で、乗務員さんがガイドします。時間制なので乗降場所やルートは変更可能です。

前から工場夜景には興味があり、行ってみたいと考えていました。東京お台場、横浜みなとみらいの夜景は好きでしたが、一方がダイヤモンドに例えられるなら、川崎工場夜景は真珠のようなやさしい輝きでした。

一般的なタクシーを利用する時は、トランクに車イスを入れ座席が低く不便です。お願いしづらく敬遠していましたが、ユニバーサルデザインタクシーでしたら車イスのまま乗降出来、お手伝いも快くしていただけ、お互

いに遠慮せず、特別料金ではなく障害者にとって利用価値のある移動手段と思いました。



(川崎マリエンからの夜景)

今後は東京オリンピック、パラリンピックに向けてユニバーサルデザインのものが多く出回り障害があっても社会参加できやすく生きがいの持てる街が欲しいと思いました。

鈴木 雅子

## 肢体協歩行訓練記

川崎市肢体障害者協会では、27 年度歩行訓練を、6 月、8 月の 2 回実施致しました。1 回目は、6 月 9 日(火)～10 日(水)の 1 泊 2 日で行い、訓練地は群馬県赤城山に近い「わたらせ渓谷」上流の草木ダム近辺で行いました。

周辺を新緑の深い山々と、ダム湖に囲まれた静かな環境の中で行い、心身のリフレッシュを図る訓練には最適の場所でした。

直ぐ前に星野富弘<sup>ほしのとみひろ</sup>美術館があり全員で見学しました。繊細に描かれた草木は、絵筆を口に咥えて描いたとは信じ難いほどの作品で、その絵に添えられた詩がまた感動的で素晴らしく、同じ障害のハンデを持つ我々を励ましている思いを感じました。

宿泊は、渋川市赤城町の「ヘルシーパル赤城」に一泊。翌日は片品川に沿う様に続く道を日光金精峠(こんせいとうげ)に向けて走り、丸沼高原スキー場の駐車場でバスを降り、スキー場に設置されたロープウェイで日光白根山が正面に見える天空の足湯場のある場所まで約 15 分で登ると、一面に薄紫色に咲き誇る日光芙蓉の花々が私たちに歓迎する様に咲い

ていた。綺麗きれいの歓声の声を背に受けて花園付近を訓練歩きした。胸一杯に山の空気を味わって、昼食のために個々に下山しました。帰りは道の駅で上州の新鮮な野菜果物をみやげに求めて帰途に就きました。



(ごうど駅にて)

2 回目は、8 月 19 日(水)箱根芦ノ湖と箱根関所跡を巡る日帰り訓練を実施しました。大涌谷の蒸気噴煙で規制区域もあり、心配で箱根観光協会に問合せしたところ、芦ノ湖周辺は大丈夫との事で決行しましたが、観光客は思ったより少なく、大型遊覧船は貸し切り状態で、ゆっくりと箱根の景観を楽しみ、箱根路の歴史も学ぶ事ができました。

会員も年々高齢化が進む中で、今年の訓練は、2 回で述べ 70 名の方が参加してくれました。地域会員同士の交流と、親睦をまた深めた歩行訓練でした。

石山 春平

## 地域活動支援センター 「いっぽ舎」

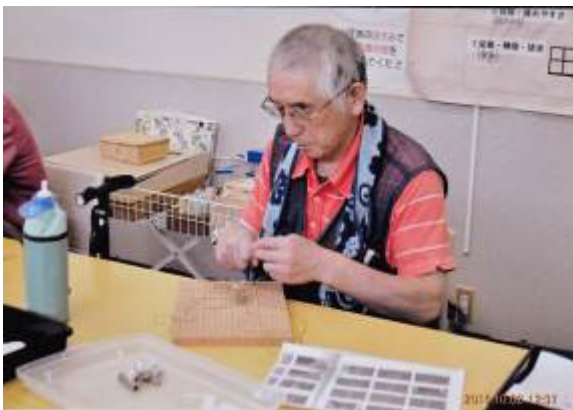
東日本大震災から十日後の早朝、自宅で仕事に行く支度をしている時に脳出血で倒れ、救急車で病院に搬送され、治療して頂きました。その後リハビリ病院でリハビリを受け退院しましたが、右半身マヒの後遺症が残りました。地域のデイサービスで週二回の機能リハビリと、障害者支援施設「れいんぼう川崎」での公共交通機関を利用した外出訓練で一人での外出が可能に成り、行動範囲が広がりました。

「れいんぼう川崎」の紹介で多摩区登戸に

あります「いっぽ舎」という地域活動支援センターに平成 26 年 6 月から週一回通っています。開所 5 年目、メンバー 21 名の活動拠点です。自動車ですら 15 分程の距離ですが、今は杖をつけてバス停まで行き、バスを乗り継いで、下車後はまた杖をついてと、片道 2 時間かかりますが、車窓からの眺めも家にいたら分からない新鮮な事です。

左手でどんな作業が出来るのか不安有り楽しみも有りの日々ですが、他のメンバーも病気の後遺症で身体に障害が残る中、懸命に作業をする姿に励まされています。

「いっぽ舎」の貼紙には『手をとめて、口を動かせ』と書いてあります。今までの職場には無い言葉ですが、心休まる言葉です。身体のマヒに加え、言葉が思う様に出てこない不自由さも有ります。



(いっぽ舎での作業風景)

午前中はプレスレットやアクセサリーなどを中心に創作して、午後からはクラブ活動で脳トレの麻雀、DVD 鑑賞、ポッチャ、料理などの沢山のお楽しみ会が有ります。口の動きが重く成り、自宅での話す事が少なくなっていく中で、メンバーとお話しする事で脳トレと口トレが出来る事は制作活動と同じように、大事なりハビリです。様々な障害を抱えながら第二の人生を明るく、各人の出来る創作活動をやり、地域の催し物会場での「手作りですよ」と声をかけながら販売する事の喜びを感じられる地域活動支援センター「いっぽ舎」です。

星野 繁

※障害者社会参加推進センターでは、本紙へ掲載する作業所の紹介記事を募集いたします。

○テーマ：「川崎市内の障害者作業所の紹介」

○原稿字数：20 字×40 行～80 行 程度

写真やイラストも可

○原稿締め切り：常時受付け

○原稿ご送付方法：郵送・FAX・Email 等

先ずは、お問合せ下さい。

(詳細についてのお問い合わせ先)

川崎市障害者社会参加推進センター

(公益財団法人川崎市身体障害者協会内)

事務局 担当：澤邊

〒210-0834 川崎市川崎区大島 1-8-6

TEL 044-246-6941 FAX 044-246-6943

Email sawabe@mbr.nifty.com

## 編集後記

「カボチャの中身をくり抜いたランタン」といえばハロウィンであるが、最近ではどこへ行ってもこの時期はカボチャ色が目に入ってくるようになった。川崎では国内最大級のイベントとして「KAWASAKI Halloween」が行われ、今年で 19 回目を迎えている。メインイベントは 2,500 人が参加して行われる仮装パレードである。残念ながら、この通信が手元に届く頃には、今年のパレード終わってしまったが、是非一度くらいは川崎でハロウィン・パレードを楽しんでもらえればと思う。

澤藤 充教



発行人 神奈川県障害者定期刊行物協会

〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地

障害者スポーツ文化センター

横浜ラポール 3F 横浜市車椅子の会内

(頒価 100 円)